

2022年度 公益社団法人北海道ろうあ連盟
合同研修会 ご案内



1. 内 容 テーマ「ろう協会・運動の未来のために」

協会の状況

- (ア) 北ろう連加盟協会は会員の減少、高齢化が進み、組織の担い手不足と運動の展開、維持、活力に影響しています。
- (イ) 加盟協会は、法人格の有無、事務所の有無、専従者の有無、手話講座以外の公的事業の受託、実施、協会独自事業の実施などができる協会と難しい協会へ二極化してきています。

意見交換

- (ウ) 手話言語条例制定自治体が増え、条例を私たちの暮らしにどう活かしていけばよいのか。
- (エ) また、各地域協会が地元で具体的に取り組んでいる事業の報告や手話奉仕員、通訳者養成の実情などについて意見交換を行います。

2. 日 時 2022年11月5日(土) 13:30~17:30 (受付開始13:00から)
2022年11月6日(日) 9:30~15:30
*2日間通しの開催です。

3. 会 場 札幌、旭川 ※他の地域会場でもぜひお願いします。

4. 方 法 二通りの方法を導入します。

- ①対面研修
- ②ZOOMによるオンライン研修

*できれば近郊協会は最寄りのオンライン研修(対面)会場にお越しいただくと幸いです。

5. 主 催 公益社団法人北海道ろうあ連盟

6. 対 象 加盟協会役員、代議員、協会長の推薦のあった会員

7. 参加費 1,000円 (資料代、会場設備代等)

- * 資料配付や出席数の確認が必要なため申込書に参加者の名前を記載願います。
- * 当日参加も受け付けますが、できれば事前の申し込みをお願い致します。
- * 11月6日(日)の昼食は各自で用意願います。

8. 〆 切 2022年10月28日(金) 必着

9. 問い合わせ 公益社団法人北海道ろうあ連盟事務局合同研修会担当まで

TEL 011-221-2695

FAX 011-281-1289

メール hokkaido@hokurouren.jp

プログラム（案）

11月5日（土） 1日目

| 時間 | 内 容 |
|---------------------|--|
| 13:00～ | 受付開始(各会場) |
| 13:30～ | 挨拶:組織部長、進行説明(司会:組織部理事) |
| 13:40～14:30 (30) | 第1 講目 情勢と課題 担当専門部:組織部 報告:第10回全日本ろうあ連盟評議員会及び第1回ブロック代表者会議報告 |
| 14:30～14:40 (10) | 休憩 |
| 14:40～15:40 (60) | 第1 講目 情勢と課題 担当専門部:組織部 ワークショップ「三拡大運動及び運動の取り組み方法」(案) |
| 16:40～17:20 (40) | 第1 講目 情勢と課題 担当専門部:組織部 ワークショップ報告・質疑応答 |
| 17:20～17:30 (10) | 2日目の流れ説明 |

*日聴紙購読数→現在568部(2022年7月21日付)

16位北海道 目標 997部 / 読者数 590部 / 達成数 59.2%(2022年6月30日付)

11月6日（日） 2日目

| 時間 | 内 容 |
|---------------------|---|
| 9:30～10:00 (30) | 第2 講目 情勢と課題 担当専門部:情報・コミュニケーション部 講話1. 「電話リレーサービスと遠隔手話通訳の違い」(案) |
| 10:00～10:30 (30) | 第2 講目 情勢と課題 担当専門部:情報・コミュニケーション部 講話2. 「道内における手話通訳者の現状と課題」(案) |
| 10:30～10:40 (10) | 休憩 |
| 10:40～11:40 (60) | 第2 講目 情勢と課題 担当専門部:情報・コミュニケーション部 ワークショップ「地域における手話通訳者」の現状と課題 (案) |
| 11:40～12:40 (60) | 休憩(昼食タイム) |
| 12:40～13:10 (30) | 第2 講目 情勢と課題 担当専門部:情報・コミュニケーション部 ワークショップ 報告・質疑応答 |
| 13:10～13:20 (10) | 休憩 |
| 13:20～13:50 (30) | 第3 講目「ろう運動の動き&取り組み」 担当専門部:福祉部 報告:事例 |
| 13:50～14:50 (60) | 第3 講目「運動の取り組み」 担当専門部:福祉部 ワークショップ「ろう運動の動き&取り組み」 |
| 14:50～15:20 (30) | 第3 講目「運動の取り組み」 担当専門部:福祉部 ワークショップ 報告・質疑応答 |
| 15:20～15:30 (10) | 閉会・後片付け |

*状況に応じて時間の変動はあります。予めご了承下さい

*ワークショップは、ブレイクアウトルーム機能を活用。

【11月5日(土)】 担当：組織部

13:40~14:30 第1講目 情勢と課題

報告：第10回全日本ろうあ連盟評議員会及び第1回ブロック代表者会議の報告

14:40~15:50 第1講目 情勢と課題

ワークショップ 「三拡大運動及び運動の取り組み方法」(案)

三拡大…①会員拡大 ②日聴紙購読拡大 ③季刊誌みみ購読拡大

- 【方法】**①地域でどのように取り組んでいるか、あらかじめ提示された課題をもとにする。
②ブレイクアウトルームを使って、他協会とディベートを行う。振り分けは運営側で行う。
③ディベートの時は必ず進行役、記録役、そのあとの報告者を決める。

【11月6日(日)】 担当：情報・コミュニケーション部

9:30~10:00 第2講目 情勢と課題

講話1. 「電話リレーサービスと遠隔手話通訳の違い」(案)

10:00~10:30 第2講目 情勢と課題

講話2. 「道内における手話通訳者の現状と課題」(案)

10:40~11:40 第2講目 情勢と課題

ワークショップ 「地域における手話通訳者の現状と課題」(案)

- 【方法】**①地域でどのように取り組んでいるか、あらかじめ提示された課題をもとにする。
②ブレイクアウトルームを使って、他協会とディベートを行う。振り分けは運営側で行う。
③ディベートの時は必ず進行役、記録役、そのあとの報告者を決める。

【11月6日(日)】 担当：福祉部

13:20~13:50 第3講目 「ろう運動の動き&取り組み」

報告：事例

13:50~14:50

ワークショップ 「ろう運動の動き&取り組み」

- 【方法】**①地域でどのように取り組んでいるか、あらかじめ提示された課題をもとにする。
②ブレイクアウトルームを使って、他協会とディベートを行う。振り分けは運営側で行う。
③ディベートの時は必ず進行役、記録役、そのあとの報告者を決める。

ブレイクアウトルーム機能でできること

Zoom のブレイクアウトルーム機能の特徴は以下の通り。

- ・ミーティング内のユーザーを最大 50 のグループに振り分けることができる
- ・1 つのグループに最大 200 名の参加者を割り当てられる
- ・参加者はオーディオ・ビデオ・画面共有機能を利用できる
- ・ホストのみ、各グループのルームへ自由に入退室できる
- ・Zoom のブレイクアウトルーム機能を利用することで、チームごとのディスカッションなどを簡単に実施できます。
- ・一度退席して、グループ別の新たなミーティングを行うといった手間がかからず非常に便利です。またホストが事前に設定しない限り、ホスト以外は他グループへの入退室ができないため、会話内容が他のグループに聞かれてしまう心配もありません。
- ・少人数のグループに分けることで参加者が積極的に意見できるようになり、会議やセミナー自体を活発化させる効果も期待できるでしょう。